



月一だより

中央区立月島第一小学校
平成30年12月 NO.443

住んでいた団地と 入学した小学校

副校長 原田 哲

月島橋から、かもが2羽浮かんでいるのを見ました。早くも、あと30日余りで、歴史的な年を迎えます。在籍児童数が430名の月島第一小学校も、各学年とも、日々の学校生活や家庭・地域での活動を積み重ねる中で、体も心も、大きくなっているようです。これからの成長が、ますます楽しみです。

先日、私は50年以上前に、住んでいた団地と入学した小学校に、立ち寄ることができました。白い山のある公園で三輪車に乗って遊んでいた写真と号棟と号室を覚えていたので、探して見つけました。手すりは錆びて古い団地でした。ベランダに、年配のご婦人が、出入りするのが見えました。親が手続きの日を間違えて幼稚園には行かず、毎日弟と遊んでいた公園には、夕方10名ぐらいの若い親子が、過ごしていました。小学校は、海沿いの国道からすぐ入った場所にありました。毎日往復2.4km歩いて通っていたことも分かりました。校庭は、地域の少年野球チームが本格的な練習をしていました。校舎から正門の坂道は、理科か図工で作った何かを、転がして走って追いかけた覚えがありました。当時1年の担任の先生には、翌年、私が引っ越してから年賀状を送り続け、結婚披露宴にも参列していただきました。私たち兄弟を、育ててくれた親は、当時どんな想いで過ごしていたのか等、さまざまなことを考えさせられました。私事で、誠に恐縮です。身の回りの全ての出来事と、誠実に向き合い、今できることを真剣に行い、前を向いて進んでいこうと思いました。

ある大学の名誉教授は「子どもが前に進む原動力は、将来を心底楽しみにしている親の姿と自分が明確な将来の夢と希望をもつこと。未来は絶対によくなると発信し続けることが大切。」と述べていました。信頼関係で長所を伸ばし、楽しい未来を想像することを、忘れずに生きて行きたいものです。

12月の生活目標 みんなで協力して学校をきれいにしましょう。

研究について

研究主任 坂根 康彦

昨年度から「生き生き・伸びる・月一っ子～基礎・基本の定着を図る指導法の工夫～」を主題として、算数科の研究を進めています。

本年度は、「数と計算」の領域で、計算の意味を考える場面を取り上げ、研究授業を実施しています。授業を実践する上では、「既習事項の活用」「立式の手立て」「対話的活動の工夫」などを重点としています。

「既習事項の活用」とは、これまで学習した内容を黒板などに掲示し、問題を解くためのヒントにすることです。「立式の手立て」とは、問題の式を立てるために数図ブロックで操作をしたり、図や数直線に表したりすることです。「対話的活動の工夫」とは、自分の考えを友達に伝える際、ホワイトボード等を書きながら説明することです。

これまでに4年、6年、1年と実践を重ねてきました。それぞれの授業後には協議会を行い、成果や課題を検討します。子どもたちの力になるよう、努力を続けます。

学校評価アンケートで一年の振り返りを！

教務主任 武内 伸輔

平成30年も残りあと一ヶ月。ご家庭でも「そろそろ今年一年を振り返ってみようか」と考え始めた頃かと思えます。

学校でも教員が12月に4月からの自分たちの教育活動を振り返っています。また、保護者や児童の意見も生かすため、4月からの学校の活動を振り返っていただく「学校評価アンケート」を配布しています。

アンケートを記入する際にお子様と一緒にアンケートの項目についてだけでなく、一年間のいろいろなことを振り返っていただけると幸いです。

提出していただいた「学校評価アンケート」は来年度の学校での活動がさらによくなり、児童が成長する教育活動につながるように活用していきます。

ご協力をお願いします。

(アンケートは12/3に配布し、
締め切りは12/13日です。)

